

特定実験局として免許を受けて運用すべく開発した アニマル・マーカ― X191-TX Ver1.0



147MHz帯 10mW
 送信時間:100msec 休止時間:1.5sec
 F2D MSK変調 今回は疑似コード送信

電池消費期間 1.5年以上(今回は免許有効期限に準拠)
 (休止時間を3secに設定すれば、3年以上)
 なるべく連続に近い送信動作が探索には有効
 (熊など動きの速いものへの利用では、休止時間が長いのは危険)



青いマーカ―は電源位置
 内蔵リードSWの位置を示します
 ここにマグネットを貼って電源OFFです



脱落機構
 本皮が朽ちることを利用したシンプルなもの



過去の稼働実績では一番と思われるATS社製M2950との比較

小型軽量という点では、写真の状態ですら約150gと約100gで勝っていますが、フィールドでの性能はきつとATS社の勝ちです
 動作試験の結果などから見直さないといけない改善点をいくつか見つけています(今回はあまりに時間が無く、見切り発車です)



アンテナ引き出し部